

2006年度活動方針

青年・学生部会に参加しているメンバーは実に多種多様なスタンスでハンセン病問題に関わっています。文学、ボランティア、人権、福祉、学問研究、ワークキャンプ等々。主たる活動の場も日本であったり外国であったり多様です。ハンセン病に対する考え方の違いもあります。しかし私たちには、ハンセン病問題をなんとか解決したいと願う共通の思いがあり、ハンセン病に関わる様々な教訓等を風化させず次世代に引き継ごうと願う決意があります。青年・学生部会に集う私たちが思想・信条や立場の違いを超えて、交流し、学び、励ましあうことにより、多くの青年・学生にハンセン病問題を知ってもらおう契機となるよう期待します。

私たち一人一人は力なき個人です。ですが、地道な努力はいつか実る日がきます。そのことをハンセン病回復者のみなさんは教えてくれました。青年・学生部会第2回準備会の講演で国本衛さんは「一人が一人に」と話されました。「(前略)...みんなが平等で自由でなければならない/そんな願いを達成させるために輪を広げていこう/輪は社会全体を席捲する/そんな力になることを願って/小さくとも輪をしっかり固めていこう/小さな集まりでもよい/一人が一人に呼びかけていこう」...。この世界の未来をつくる私たち自身が、希望を抱き一歩前へ進んで行きましょう。

●交流を広げます

設立したばかりの2006年度は部会員相互の交流を深め広げる活動に重点をおきます。以下の他にも必要な交流の機会をできるだけセッティングしていきます。

(1) 青年交流会

2005年8月に有志の実行委員会主催でスタートした「ハンセン病問題を知りたい青年交流会」を引き継ぎ、夏の恒例行事として主催します。ハンセン病療養所での開催を基本に順次、全国各地で開催していきます。2006年は駿河療養所を会場に、園当局と自治会の支援もうけて開催します。

(2) エリア活動

地域ごとのつながりを生かし、日常的な交流活動をすすめます。現在、首都圏エリア（東京・神奈川・千葉・埼玉等）がどんな取り組みができるのか相談をすすめているほか、東海地方（愛知・三重・静岡等）でも複数名が駿河療養所で集まるなど交流がすすんでいるようです。人数の多少にこだわらず条件のある地域から一定地域内の部会員が集まって交流を広げましょう。

(3) 分野別活動

医療従事者、学者・研究者、教員等々、専門分野を同じくする人同士の交流も呼びかけます。愛知「太陽の会」では医療部会として現職の医療従事者や医療従事者をめざす学生などが栗生楽泉園を訪ねました。それぞれの分野にかかわるメンバーが積極的に声をあげていきましょう。

●情報交換をすすめます

部会員は北海道から沖縄まで広範囲にいます。一堂に会することは容易ではありません。そのなかでも各地の活動報告やハンセン病にかかわる最新の情報を共有する手段としてインターネットを活用します。

(1) メーリングリスト

部会員全員が対象となるメーリングリスト（基本ML）と、幹事の事務連絡用メーリングリスト（幹事ML）を運用します。基本MLを部会の連絡手段の基本として位置づけます。

(2) ニュースの発行

『市民学会年報』『市民学会ニュース』とは重ならない内容で独自にニュース（部会報）を発行します。ニュースは各地の青年・学生の活動報告や研究成果などを掲載し、青年・学生の動向をできるだけ反映できるものとします。発行頻度は年1回、春頃を予定します。

●学問研究のバックアップ

ハンセン病を研究テーマに据え、論文執筆や製作に取り組む学生は少なくありません。これら学生の意欲を重視し、研究の側面支援を行います。

(1) 図書・資料

ハンセン病にかかわる文献・資料の調査を支援するために、第2回交流集会で発足予定の図書・資料部会と連携し、卒論等でハンセン病をテーマに執筆予定の学生対象に「資料セミナー」を開催できるよう相談をすすめます。

(2) 「アドバイザー」

ハンセン病回復者、支援者、学者・研究者等に就任をお願いしていく予定の「青年へのアドバイザー」を早期に全療養所に対応して委嘱し、学生の療養所訪問に際してバックアップします。

また、証言の「聞き取り」活動に習熟しているベテランに学び、「聞き取り」について深めることのできる講座の開催も検討します。

(3) 研究ライブラリー

研究成果としての各種論文、卒業制作等を記録し、ライブラリー化します。卒業研究を社会に還元し、学生相互の問題意識を高めるために「合同卒論発表会」を計画します。